

今月の例会報告



一年の締め！大望年会を開催！

農業経営部会は12月21日に一泊望年例会を開催しました。(株)そら 代表取締役 米田健史氏をお招きして、『「なぜ十勝」を「だから十勝」に。』をテーマに記念講演を開催。同社の運営するグランピングリゾートフェリエンドルフを会場にて、望年会やコテージでの宿泊を楽しみました。

そらは野村証券に勤めていた米田社長が十勝へ移住し、2020年に設立。移住に際して多くの方から「なぜ十勝なのか？」と問われたことから、「だから十勝なのか！」と多くの人に十勝の持つ魅力を知ってもらいたいと様々な事業を展開しています。設立して2年ですが、50棟の貸コテージを有するフェリエンドルフや帯広駅前の老舗温泉ホテルであるふく井ホテルの事業を引継ぎ、自社の事業領域を増やしていくとともにコントレイル事業で起業家支援や地元の歴史あるデパート藤丸の再建にも尽力しています。

フェリエンドルフでは、コロナ禍の影響が直撃し、低迷していた事業を引き継いだところから全棟リノベーションや冷燻工房の新設、温泉施設の新設な



伝統的な装いのレストランで2023年を「望」みました



講演した米田氏



会員の牛肉、キノアなどが使用されたコールドビーフサラダ

ど、施設全体のバリューアップを図りながら経営を再建。ふるさと納税型クラウドファンディングを活用し、地域と共に自社を盛り上げていく取組を行っています。そんな米田社長とこれからの十勝について語り合い、十勝の魅力を再確認しました。望年会では、部会員の食材を使った料理に舌鼓を打ちました。当日はコテージに宿泊。ドイツ様式の木ぬくもりを感じられるコテージを楽しみ、満点の星空を堪能すると十勝の持つ最大の魅力が体感できたのではないのでしょうか。

極寒でもスムーズな堆肥化。農業新技術グループ1月視察例会

1月18日には(株)ミライエ 代表取締役 島田義久氏をお招きし、同社の開発・設計する堆肥化システムについてお話を伺いました。

ミライエの前身は測量会社。父から事業を引き継いだ島田氏は公共工事の減少などで売上減が続く測量事業から地球環境に寄与する環境設備メーカーへと舵を切ります。現在は、北海道の厳しい寒さでも安定

して堆肥化ができるシステムと脱臭装置を全国へ展開しています。今回はそのうち堆肥化システムの導入先を視察。製糖工場から出る汚泥を肥料へと変えています。堆肥の下に敷いたレール状のホースについた目詰まりのしないノズルから超高压の空気を出すことで酸素を行き渡らせ、切り返しもせずに安定した発酵温度を保ちます。肥料価格の高騰も少しずつ落ち着きを見せ始めていますが、まだ注視が必要です。今後もこういった技術は注目されていくところでしょう。

(今後の予定)

2/21(火) 農業マネジメントグループ例会

事業承継をテーマとしたパネルディスカッション

etc.....

農業経営部会今後の予定

新年あけましておめでとうございます。十勝晴れの青空の中、新年を迎えました。2023年は農業だけでなく経済界全体で転機の一年となりそうです。そんな中いち早く先を見据えた農業を展開するため、農業経営部会では学びを続けていきます。